

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272300641		
法人名	医療法人慶成会		
事業所名	グループホームすごう		
所在地	青森県南津軽郡藤崎町大字葛野字新岡元56-1		
自己評価作成日	平成26年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成27年1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・環境に恵まれ、敷地も広く、安全に前庭の散歩を楽しむことができる。 ・母屋に和室を設けており、居室と自由に行き来ができ、自宅にのような雰囲気味わえる。 また、行事も行うことができる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物の造りを活かし、イベントを企画して、皆で一緒に楽しめる工夫をしている。 家族と利用者が一緒に楽しめるように、桜祭り等への外出のイベントを企画し、家族が関わりを持ちやすい工夫をしている。 また、行政との連携も密に図られており、ホームの運営について行政の理解や支援があり、地域密着型のメリットとなっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は全職員で作成し、日々のサービスに反映されているか申し送り時に確認している。	理念は、地域密着型サービスの役割を理解した上で、職員で考えて作成している。職員に周知するためにホーム内に掲示している他、申し送り時に唱和しており、日々のケアで迷った時も理念を振り返り、ケアに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に加入している。ホームの行事等を通し、交流を図っている。	地域とのつながりを大事に考えており、町内会に加入し、ホームからの夏祭り等のお知らせは回覧板で周知して参加を呼びかけている。また、実習生や他グループホームの職員研修を受け入れている他、運営推進会議のメンバーとして町内会長や民生委員、老人クラブ等にも依頼し、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして、地域の認知症ケアの普及活動に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームからの情報や報告等に対して意見をいただいている他、自己評価、外部評価の結果を報告している。	会議の開催は、議長の都合を確認し、日時を決め文書で案内しており、メンバーの出席率はほぼ100%である。会議では行事や感染症予防の情報等をホームからの報告等だけではなく、メンバーからも情報提供を求められたり、要望が出されたりと意見交換を活発に行っている。また、会議では自己評価・外部評価の報告や目標達成計画についても説明している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市町村職員、地域包括支援センター職員に出席いただいております、ホームの実情等を報告している。	運営推進会議には町の担当職員と地域包括支援センター職員が毎回出席している他、自己評価・外部評価結果及び目標達成計画についても説明し、配布している。また、消防団への協力依頼等も行政が行う等、ホームや利用者の利便性等について連携が図られている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やホーム内の勉強会において職員の理解を促し、拘束しないケアに取り組んでいる。	契約書に身体拘束を行わないこと、やむを得ない場合には記録することが明記されており、マニュアルは整備されていないものの、職員は身体拘束をしないケアを実践している。安全を考慮してベッド柵を使用する場合等は、家族に説明して同意書を得ており、記録をしている。また、居室に鍵はなく、玄関は日中施錠をしていない他、無断外出時に備えて警察に協力を働きかけており、町で無線放送を流す体制も整えている。	マニュアルを整備すると共に、どのような行為が身体拘束となるのか、それによる弊害はあるか等、職員が確認するための取り組みを定期的に行ってはどうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通し、虐待に対する理解を深めている。また、職員がお互いに気がついたことを話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地元の社会福祉協議会の協力を得て内部研修を行い、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ホームの方針や対応等を詳しく説明している。利用料の改正等はその都度説明し、同意を得ている。契約解約時にも、利用者が不安にならないよう配慮して説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が、意見・要望が言えることを説明している。家族の面会時に、遠慮なく何でも話せる雰囲気づくりに努めている。	利用者や家族が意見・苦情を出しやすいように、受付窓口をホーム内に掲示したり、ホーム便りにも掲載している他、担当職員を一人に決めて、意見等を集約しやすいように工夫している。家族には運営推進会議のメンバーにもなっていていただき、意見を聞く機会を持っている他、面会時等にホームでの暮らしぶり等を報告し、家族が意見を言いやすい雰囲気づくりを心がけている。また、上手く気持ちを表出できない利用者については、担当職員が中心となり、表情や言動等から汲み取るようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、全体会議にて職員から意見が出され、それを運営に反映できるようにしている。	月に1回、職員会議を開催し、職員からはケアのことや施設の設備等について意見が出され、それを基に改善する等、反映されている。勤務は職員の希望を確認している他、利用者への影響を考慮し、極力異動を行わないようにしており、利用者の担当職員についても相性等も含めて考慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境は、労働基準法に基づく就業規則により遵守されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成して、個々の経験に応じた研修を受講し、伝達研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と2ヶ月に1回、意見交換会を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談では、本人の心身の状態や思い、ニーズを理解することを心がけ、安心してもらえるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に関する相談があった時には、家族と本人から希望・ニーズを伺い、ホームとして対応ができるか話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要であるかを見極め、必要な支援を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支え合うよう、ひとつの家族のような感覚で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を通して、利用者の思いを共有し、共に支えていく関係を築いていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以前から関わりのある友人との関係を、できる限り継続できるように支援している。	利用者のこれまでの馴染みの場所・関係等を把握しており、ホームの外出行事を企画したり、個別の美容院等の外出を家族と協力して支援している他、電話や手紙を出す支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者が孤立することがないように、利用者同士の関係性を把握し、日々の生活の中でお互いが支え合っているように働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られる場合は、これまでの生活の状況等を情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者の行動等から本人の思いをできるだけ把握するように努めている。	職員はケア場面で、随時、利用者の思いや希望を把握する支援を心がけており、把握が難しい場合は全職員で協議し、利用者の意向を確認している他、管理者が定期的に確認する仕組みも整えている。また、必要に応じて、家族等に情報を聞く等して把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報等で、これまでの生活歴や個性等、ある程度把握して支援に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で個々の生活リズムを把握し、体調の変化にも注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、全員でカンファレンスを行い、作成している。また、本人の思いのみならず、家族の意向も反映するように努めている。	介護計画は利用者の思いを確認している他、日頃の様子からの気づきを全職員で確認し、作成をしている。必要に応じて家族等から情報を得ながら、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を作成しており、6ヶ月毎に見直しをする他、状況変化時等は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護計画は、日常の様子や本人の言葉等を記録し、職員間で情報を共有した上で作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診介助や外出支援等は、利用者のニーズに柔軟に対応して実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの行事等には、地域の民生委員やボランティアからの協力をいただいて実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を主治医として、継続して受診できる環境を整えている。受診は職員が同行し、結果等は家族に報告している。	入居前の受療状況を把握し、継続した受診ができるよう支援している他、認知症専門医や歯科、眼科等の受診についても、希望に応じて支援している。受診はホームで付き添い、家族の協力を得ることもある他、受診結果は家族と共有し、納得いただいている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各棟に看護職員がおり、健康管理に努めている。また、夜間における緊急時の対応方法も整備している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、早期退院に向けて関係者と話し合いをしている。入院中は状況を確認しながら職員が顔を出すように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針として、ターミナルケアは実施していないことを入所契約時に説明している。	ホームでは、利用者の重度化や終末期には対応しないこととしており、入居時に説明し、納得いただいた上で契約を結んでいる。体調急変時の対応や入院が必要になった時に希望する医療機関を把握しており、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急救命の研修を受講している。また、緊急時マニュアルに従って対応できるように、日々、確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元の消防署に連絡・報告を行った上で、年2回の避難訓練を実施している他、災害時に備え、3日程度の食料・飲料水を確保している。	避難誘導策を作成し、年2回、職員と利用者が共に避難訓練を実施しており、内1回は夜間を想定している。災害時には消防署等の協力が得られるようにしている他、避難路は雪でふさがれないよう整備されており、非常口のチェックもしている。また、食糧や飲み水、トイレ、おむつ、ストーブ等を準備しており、3日は過ごせる装備となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には、採用時に個人情報の守秘義務に関しての誓約書の提出を求めている。排泄の失敗等にはさりげなく声がけをして、個室にて対応するようにしている。	利用者には傾聴の姿勢を持って接し、例えば幻視等があっても否定しないケアを実践している。排泄ケアは他の利用者に聞こえない・見えないケアを心がけている他、職員同士で声がけ・支援方法等について話し合い、改善を図っている。また、職員は採用時に守秘義務保持の誓約をしており、個人情報の取り扱いに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状況に合わせ、自己決定できるように働きかけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れが決まっている時以外は、状況を見ながら、できるだけ本人の希望に沿えるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりを大切にして、実現できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状態に合わせ、粥、キザミ食にして支援している。	献立から配達までは外部委託となっており、調理はホームで行い、利用者の好みに合わせてメニューやおやつを追加等をしている。利用者にはお茶の準備やテーブル拭きをお願いしている他、職員は食事を一緒に摂ることはできないが、席に座って会話を楽しみながら、食べこぼし等に対してさりげないケアを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は外部業者より発注されているため、カロリー計算されている。水分摂取量は計測し、記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて、義歯の洗浄、消毒、管理等の対応をしている他、食後のうがいを声かけにて促している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。失敗時にはブラーバシーに配慮し、居室で着替えをしていただいている。	一人ひとりの排泄を記録し、パターンを把握しており、事前誘導でおむつ使用量を減少させる等の効果を生み出している。また、失禁時は他の利用者に気づかれないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や軽い運動を促している他、必要に応じて下剤を使用する等、個々に応じた対応を心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴する曜日は決められているが、個々の入浴習慣を把握して、楽しんで入浴できるように支援している。	入浴は入る順番や好みに応じて、一緒に入る組み合わせ等に配慮している。入浴時は必ず職員が付き添い、声かけや必要に応じて洗身ケアをする等、適切なケアを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主治医より眠剤が処方されている方もいるが、日中はできるだけ体を動かしていただき、安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食後に本人へ手渡しをして服用していただき、職員が確認をしている。処方内容変更時には申し送り時に職員間で共有し、症状の変化に留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で役割を持っていただいている。趣味を楽しめるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏期は前庭の散歩を日課にしている他、時にはドライブも取り入れて気分転換を図っている。	夏は前庭に出たり、道の駅等へのドライブを行っている他、家族にも呼びかけて桜祭り等のイベントにも出かけている。移動の距離等を踏まえ、利用者の身体的負担等も考慮して車いす対応にする等の支援をしている。また、利用者の希望を聞いて外食に出かける等の支援も取り入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自販機でジュースの購入等ができるよう、少額の金銭は所持していただいている。預り金は会計担当者が個々の出納帳に記入し、定期的に家族に内容を確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用したい方には番号を押す支援を行っている他、手紙を出したい方には切手を貼り、投函する等の支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は家庭的な雰囲気を感じられるように心がけ、飾り付けはシンプルにしている。	ホーム内はユニット毎に雰囲気も違い、利用者が過ごしやすい空間づくりを心がけている。また、季節を感じられるように、季節に合わせた飾り付けをするものの、過度にならないように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭や外の景色が見えるように、廊下の途中にソファを置く等、静かに過ごせる空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込む方、シンプルが好みの方等、それぞれの好みに合わせ居室づくりを行っている。	利用者に各自の居室で、これまでの生活とできる限り同じように過ごしてもらえるように、自宅で使用していたタンスやテーブル、家族の写真等を持ち込んでいただいている。また、持ち込みの少ない利用者には好きな歌手のポスターを貼る等、利用者の好みに合わせた居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせて目印を付け、混乱のないようにしている。		